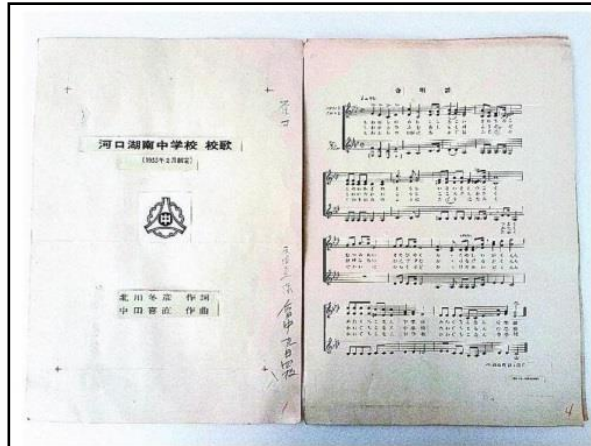


年 組 名前：



# 湖南中校歌版下 68年経て学校に

## 都内出版社で発見、OG連絡

1955年に制定された富士河口湖・河口湖南中学校の歌詞と楽譜が記された版下が東京都の出版社「野ばら社」で見つかり、学校に寄贈された。「めだかの学校」などを作曲した故中田喜直氏が校歌の作曲を手がけ、中田氏が校歌の印刷を同社に依頼したことから保管されていたとみられる。版下は印刷の元となる原稿で、関係者は「まさか東京で見つかるとは」と驚いた。(坂本尚己)

見つかったのは、校歌の版下と、当時の教員が同校の校歌を作曲した作曲家の中田氏に宛てた手紙。版下には「河口湖南中学校 校歌」の文字や校章、作詞、作曲者名などが記載されている。

野ばら社（東京）から見つかった校歌の版下

が台紙に貼り付けられており、この版下を元に校歌の楽譜が印刷されたとみられる。手紙の差出人は学校の音楽教師だった渡辺昭秀氏。「楽譜の件ですが、2000部お願いたします」「いろいろ交渉が面倒でしたら御一報下さい。すみません」など、校歌に関わるやりとりが記載されている。同社によると、昨年12月、社員が倉庫内を掃除していたところ、版下や手紙を発見。同社の社員で、同校卒業生の大橋真生さん(41)に同僚から連絡があったという。中田氏は「めだかの学校」や「ちいさい秋みつけた」などを作曲した作曲家。同社はかつて、中田氏の曲集などを刊行しており、大橋さんは中田氏が野ばら社に校歌の印刷の依頼をしたために、版下や手紙が保存されていたのではないかと話す。2023年は中田氏の生誕100周年。3月に学校を卒業した3年生は新型コロナウィルス感染拡大の影響で合唱ができず、卒業式で初めて校歌を歌うことができたとい

う。大橋さんは「偶然が重なって、驚いている。校歌を歌ってほしくて出てきたのではなにか」と話す。

大橋さんが3月上旬に学校を訪れ、梶原正彦校長に版下を渡した。梶原校長は「見つけたのは大変喜ばしいこと。保管方法を助教とも相談しながら考えたい」と話していた。

(2023年4月4日付 山梨日日新聞13面)

### 問1

富士河口湖・河口湖南中学校校歌の楽譜が記された版下が見つかりました。どこで、どのように発見されましたか。

- ・どこで： .....
- ・どのように： .....

### 問2

校歌の作曲者と、代表作2曲を教えてください。

- ・作曲者： .....
- ・代表作： .....

### 問3

同校卒業生の大橋さんは、この発見について、どのように話していますか。

.....  
.....